



スペイン第三の街

マドリッド、バルセロナに次いでスペインで三番目に大きな街がバレンシア。

バルセロナから地中海沿いを南にバスで五時間弱、人口約八十万。オレンジとパエリア、そしてバレンシアで唯一の世界遺産「ラ・ロンハ」などで有名な街である。

ガイドの説明によると、街路樹として植えられている種類は、葉も写真のように大小の葉の串刺し。今はイギリスなどに輸出されてジャムになっているという。しかし残念ながら旅行中にバレンシア・オレンジは一度も口にする事がなかった。

カメラに収めたが、ご覧のようにこれでは大きさがわからない。こんな時は横にタバコを置くなど比較するものと一緒に撮らないと意味がないのだが。ちなみにこの鍋の大きさは直径七十センチくらいであった。

「番地は奇数？」
帰国の飛行機まで途中の移動はすべてバスだが、車窓で一つの発見をした。

住宅の番地がすべて奇数なのである。なぜだろうとガイドに聞くと、道路を挟んで反対側はすべて偶数になっているという。

確かにその通りで、この発想は面白い。家を訪ねる時、番地を知っていれば、道路を挟んだどちらか一方を探せばいいのだ。

成田エキスプレスに乗ると、座席番号が通路を挟んで左は奇数、右は偶数になっている。

（カテドラル）
さて、カトリック国



直径七十センチのパエリア

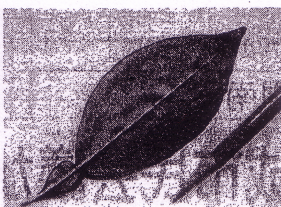


一四二〇年完成の八角形のミゲレテの鐘塔

パ有数の広さを誇り、庶民の活気が感じられた。今回は旅行ガイドのようになつたが、七十九人という大きな団体の旅

を旅すると、大きな街のほとんどにカテドラルがある。日本流に言えば司教座聖堂。司教の座席のある聖堂のことで、その地域に一つしかない。カテドラルはそれぞれ特徴があるが、帰国して写真で見ると、どれも一緒に見え、デジタルカメラの順番でやっとなることが多い。

バレンシアのカテドラルは併設されている高さ七十メートルのミゲレテと呼ばれる鐘塔がある。訪ねたラ・ロンハの前の中央市場はヨーロッパ



苦いオレンジの木の葉